

# キャベツピシウム腐敗病の防除法

高冷地野菜研究センター 番場雅人

## 1 成果の概要

高冷地におけるキャベツ生産で問題となっているピシウム腐敗病への対策として、品種ごとの耐病性を明らかにした。また、薬剤の適切な散布時期を検討したところ、定植直後の防除と比較して結球前及び結球中期の防除の方が高い効果が認められた。

## 2 背景、目的

平成16年頃より、キャベツピシウム腐敗病 (*Pythium ultimum* var. *ultimum*) による結球部切り口の褐変症状が嬭恋村内で確認されている。病徴が従来の苗立枯れ症と異なるため、使用できる登録薬剤に限られ、防除効果も判然としていない。また、土壤伝染性病害であるため今後の被害拡大が懸念されることから防除技術の確立が求められている。そこで、本病の対策技術を確認することを目的に試験を実施した。

## 3 成果

- (1) 本病害の中発生条件下における耐病性の品種間差を調査した結果、「TCA-490」「初恋」「改良愛輝」の発病株率は比較的低く、強い。一方、「青琳」「葵」の発病株率は比較的高く、弱い傾向にあることが示唆された(図1)。

定植時期：6月上旬  
収穫時期：8月中旬

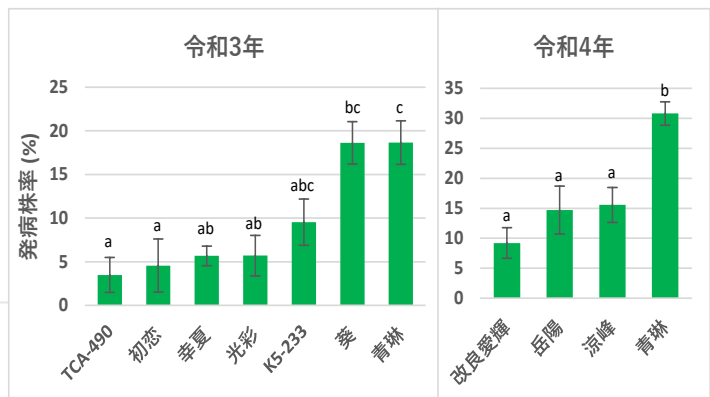


図1 ピシウム腐敗病発病株率の品種間差

※図中のエラーバーは標準誤差を示す。

※異なるアルファベットは有意差があることを示す。(p<0.05)

- (2) 登録薬剤2剤を用いて散布適期を検討した結果、定植直後の散布では発病株率13.9~22.5%、結球前から結球中期の散布では発病株率3.4~11.1%となり、定植後30日以降の薬剤散布による防除効果が高いことが確認された(図2)。

試験品種：「青琳」  
定植時期・収穫時期は(1)と同じ

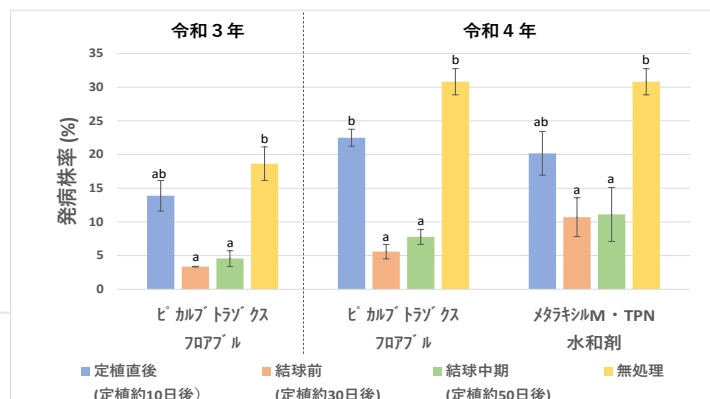


図2 農薬散布時期別のピシウム腐敗病発病株率

※図中のエラーバーは標準誤差を示す。

※異なるアルファベットは有意差があることを示す。(p<0.05)

## 4 成果の普及、活用方法

技術資料へのとりまとめ及び生産者勉強会での周知を通して、本病害が問題となっている圃場における品種選定や農薬散布時期を検討する上での資とする。